

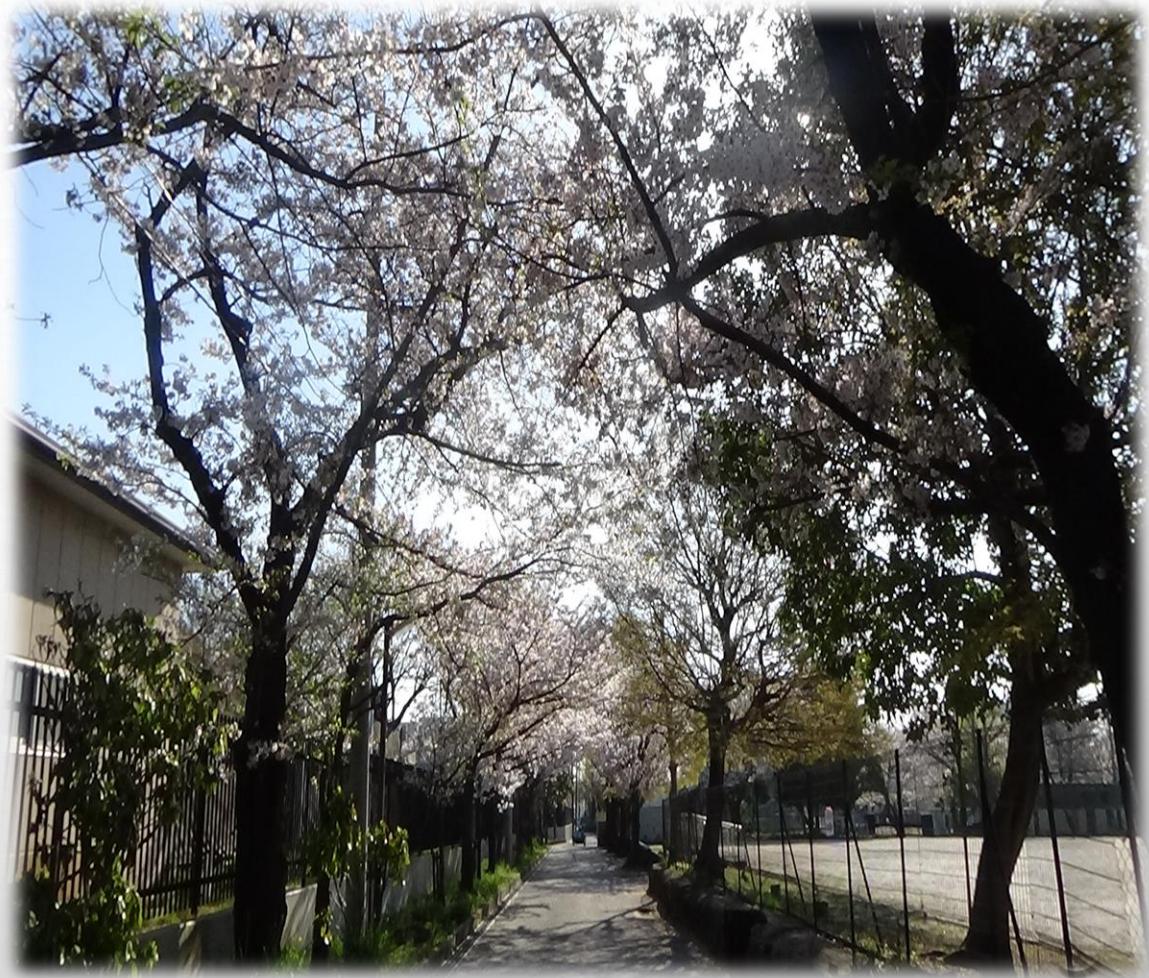


市川市立第一中学校

令和7年度新入生保護者説明会

令和8年1月26日

自慢の桜並木



令和7年度学校経営方針

1. 校訓 大成

～未来へつなぐ可能性への挑戦～

2. 学校教育目標

- ・共に学び 創造し 行動する生徒の育成

3. 目指す学校像

- ・**生徒、保護者、教職員が誇りを持てる学校**
- ・生徒や教職員が生き生きと活動できる学校
- ・いつでも気持ちのいい挨拶が聞こえてくる学校
- ・明るくきれいな学校
- ・地域とともに歩む学校

4. 目指す生徒像

- ・自分を大切にし、人にも優しくできる生徒
- ・自分の考えをしつかり発信し、仲間と手を取り合って進む生徒
- ・丁寧に学び、よりよく生きようとする生徒
- ・感謝の気持ちを持ち、社会に貢献しようとする生徒
- ・明るく活力を持ち、将来の大成を期している生徒

5. 目指す教職員像

- ・生徒とのふれあいを大切にし、生徒とともに成長しようとする教職員
- ・魅力にあふれ、生徒の目標となれる教職員
- ・授業を大切にし、指導力を高めあえる教職員
- ・協働し、切磋琢磨する教職員
- ・ワークライフバランスを考え、心身共に健康な教職員

生徒主体

3年生校長面接において
Q:あなたの出身中学校は
どんな学校ですか？

A:**生徒主体の学校です。**
行事の運営を生徒が
中心になって行う学校です。
生徒の自主性を鍛える
学校です。



- ①みんながOKといえる目標を決める。
※各自の考えが生かされる目標
- ②目標を達成するための方法等を自分たちで考える。
- ③目標達成に向けて仲間と協働して行動する。
- ④卒業した後、一中を誇りに思える。

(校長の考え方)

～地域の方たちと共に学んだ地域連携行事～

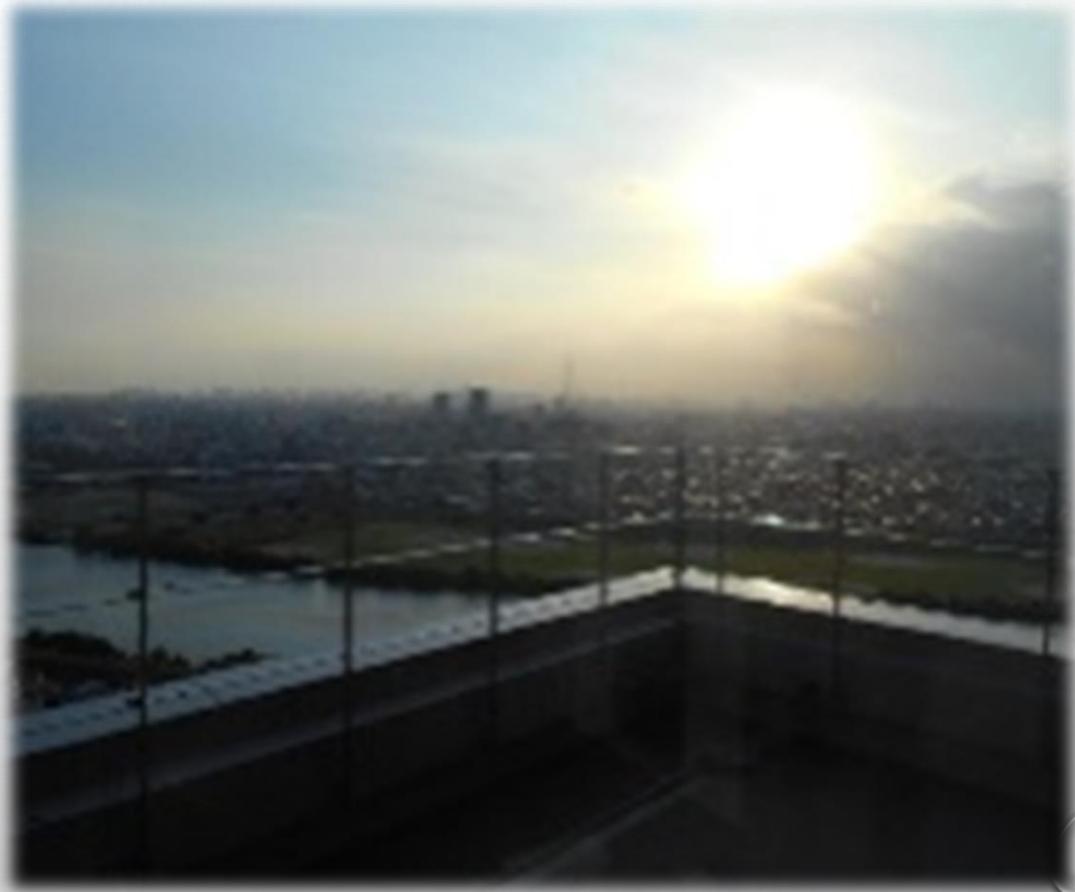
『国府台高校との交流』



『国府台高校見学会』



『和洋国府台女子高等学校・大学との交流』



『千葉商科大学との交流』

令和8年2月2日(月)

2年生キャリア教育の一環でワークショップ
開催予定

部活動地域展開

部活動地域展開の今後の方針・方策について

2025/3/3
学校教育部保健体育課

1 地域展開の基本理念

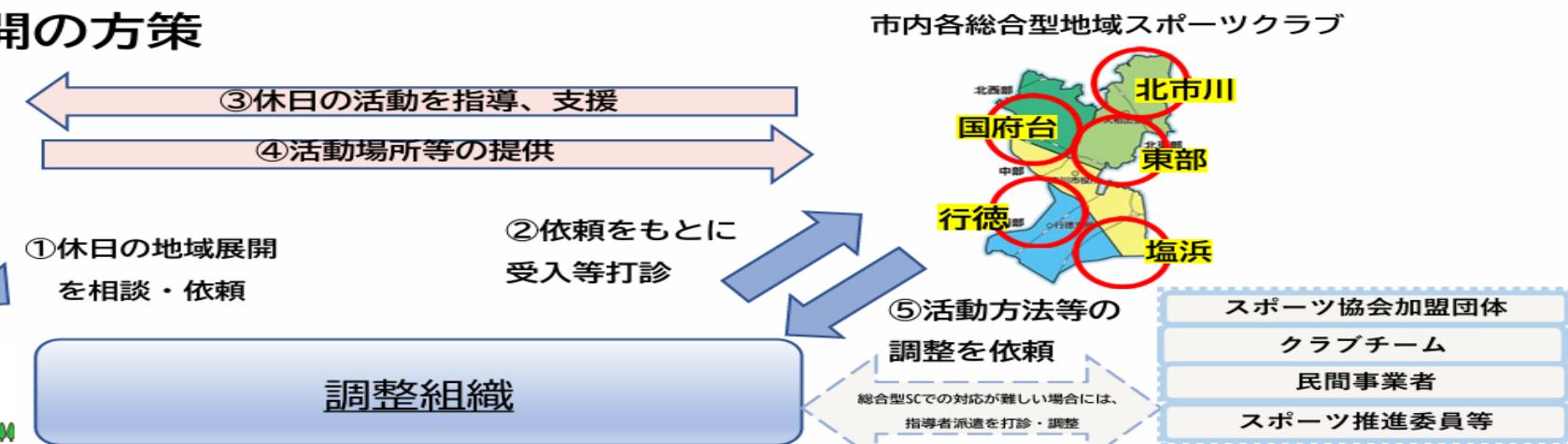
- 将来にわたって子どもたちが継続的にスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保・充実する。
- 学校・地域・行政が連携し、環境の整備を図る。
- スポーツ・文化芸術活動を通して、お互いを尊重し高めあう活動を行い、子どもたちの心身の健全な成長を支える。

2 今後の方針

参考:市人口推計(0~14歳)市川市第三次基本計画より
2025年 約5万7千人 2030年 約5万5千人 2040年 約5万1千人 2050年 約4万5千人

R 5 年度	改革推進期間			改革実行期間(前期) 休日の地域展開に着手		
	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	
国の新たな方針 <small>※「地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議」中間とりまとめより</small>						
市川市の方針	・東部総合型SC設立	・第四中にて5部活移行 <small>※参考 運動系:169部活 文化系:49部活 (うち、休日活動は、約20部活)</small>	・全中学校部活動地域展開着手開始 (35部活分予算確保) ・東部以外の総合型SC地域展開開始 ・部活動地域移行検討協議会 (受益者負担など課題の検討)	・部活動の地域展開を推進する (文化系部活の地域展開着手)	・部活動の地域展開を推進する	・休日の地域展開完了予定

3 令和7年度の地域展開の方策



子育て四訓

○乳児はしっかり肌を離すな = 基本的信頼感

○幼児は肌を離せ、手を離すな = 自律性・自主性

○少年は手を離せ、目を離すな = 勤勉性(小学生・中学生・高校生)

☆学童期は、友だちとの付き合いによって社会性が育つ時期

ここではしっかりと手を離し、活動範囲を広げてやらないといけません。

でも、いろんな危険があるので、目を離してはいけません。この時期は遠く

から見守り、子供が何かで声をあげると助けてあげましょう。

○青年は目を離せ、心を離すな

☆青年期にまでなると、完全に自立していくために自分なりの生きがい・

進路を歩んでいくときであるが、気持ちの上では、心を離してはいけ

ないということである。

いずれにしても、子育ての最終的な責任は親にあるという基本を忘れて

はいけない。

中学生の特徴①

○思春期

第二次性徴期→ 男性ホルモン、女性ホルモンが盛んに分泌

大きな身体的变化

大人になる誇らしさ、戸惑い、不安、恥ずかしさ

第二次反抗期→ 自我同一性「自分が自分である」という自覚

「自分が何者であるか」「これからどう生きて

いくのか」問い合わせを求める悩む時期

中学生の特徴② 自己理解

○自我の目覚め

親や教員への**反抗・批判**

知的発達は大人への**批判を増大**させる

○第二次反抗期

生活経験で不十分であることへの心の底での自覚

不安、大人への依存はしたい

葛藤

◎独立への欲求

◎依存への欲求

中学生の特徴③対人関係・コミュニケーション

親から分離

「自己の考え」に共感する 同世代への関心

同じ興味関心を共有するグループにおいて「相互に自己の存在を確認し合う」

同性の友人との信頼関係が親からの心理的分離に必要

中学生の特徴④対人関係・コミュニケーション

○身近な大人、友人との関係、様々な経験を通して自己決定力を高める

①小学生：遊び仲間とのいたずら、競争、協力、妥協を経験

②小学校～中学校：同性の友人、遊びやおしゃべりの中で自分探し

③次に自分とは少し違う面を持つ親友、語り合い、批判し合いを通して
自分づくり

→ぶつかり合う経験が必要

お願ひ① ~「子どもに考えさせる」~

○大人の経験や価値観で先回りして答えを先に出さない。

○自律につながるサイクル

①自分で考え②判断し③決定し④行動する

○問い合わせ引き出し

「どうしたいの？」問い合わせ

「～したい」引き出し

またはA案、B案選択肢を用意して、自分で選ばせる。

コーチング理論の活用、**答えは子どもの中にある。**対話を
大切にする。

大人は自分で考えさせ、答えを引き出すには時間がかかるが
粘り強くやる。

お願い② ~「失敗をさせましょう」~

○大人の経験や価値観で先回りして手助けを先にしない。

※自分とは違う面を持つ親友、語り合い、批判し合いを通して
自分づくり

→人付き合いも何でも失敗には次への
ヒントがたくさんあり、実体験こそが
人を成長させる。

声掛けしてあげたいこと

自分自身が悩んでいる自分に
へこまないこと

自己受容感について

「人間だから悩むのは当たり前
悩んでもいいじゃないか」

みんな悩んで成長する

- ・誰もが日々悩みながら生活をしている。
- ・悩み事を解決しようと、知恵をしづかに信頼できる大人や仲間に相談することで今までなかった知識や力が身につく。
- ・そして悩みを乗り越えた時には自分に自信がつく。
- ・これを繰り返しながら人は成長していく。